

## 茶の二段刈摘採, その下段処理について

徳 永 保 利  
(宮崎県総合農業試験場)

TOKUNAGA, Y.

On the Mechanical Plucking Method of Tea Leaf.

最近、茶園においては乗用型摘採機の導入が活発となり、摘採作業の省力化がはかられている。また、茶園の肥培管理も周到に行なわれ、茶芽の伸育も良好な状態である。かような茶園において、十分に伸育した茶芽の上部1心3葉と下部を区分して、機械摘採する方法として、二段刈法があるがこれの下部の適正な処理時期等について試験を行なったので、その試験の方法と結果の概要について報告する。

### 1. 試験方法

- (1) 品種 やぶきた成木園
- (2) 耕種法 普通耕種基準, 乗用型摘採機による摘採処理
- (3) 試験の内容

番号	区 別	処 理 方 法
1	上 段 刈 り	茶芽の上部を1心3葉で摘採する
2	即日下段処理	上部を摘採したら下部も同日に摘採する
3	3日目 "	" を3日目 "
4	5 " "	" 5 "
5	8 " "	" 8 "
6	10 " "	" 10 "
7	12 " "	" 12 "
8	慣行摘採	本茶摘採後8日目に番刈りする

出開度 1番茶67.0%, 2・3番茶80%で摘採。1番茶芽の芽長7.0cm, 葉数3.8枚, 百芽重54.8g (全摘芽)

### 2. 試験結果

#### (1) 収量調査

上段, 下段の収量割合を48.8%および51.2%で摘採した結果, 下段の処理が遅くなるほど収量は増加した。しかし, 2番茶では10日, 12日目と遅い処理区が減少の傾向を示し, とくに, 12日目では3番茶においても, その影響がみられた(第一表参照)。

#### (2) おくれ芽および次茶期の萌芽期について

下段処理が早いほど, おくれ芽および新芽の伸長が多くみられるが, 8, 10, 12日目では少なく, その差もほ

とどなかつた。2番茶の萌芽期は4~13日遅れ, 摘採日は1~10日遅れた。3番茶では萌芽期は1~8日遅れ, 摘採日は1~7日遅れとなり, 萌芽期, 摘採日とも各区の差が縮小する傾向にあった。

第1表 合計収量 kg/10a  
(1番茶, 下部および2・3番茶の計)

番号	区 別	1番茶 下 段	2番茶	3番茶	計	%
2	即日処理	374	375	330	1,079	100
3	3日目 "	382	364	336	1,082	100
4	5 " "	382	356	347	1,085	100
5	8 " "	435	378	338	1,151	106
6	10 " "	526	351	330	1,207	111
7	12 " "	613	347	308	1,268	117

#### (3) 荒茶品質および評価額

下段の処理が遅くなるほど, 外観, 内質とも劣る傾向を示し, 特に8日以上遅れ区のもの著しく劣った。評価額も同様な傾向にあった(第二表参照)。

第2表 荒茶品質および評価額

項 目	区 別	区 別							慣行 本茶
		上 部	即日 下 部	3 日 目	5 日 目	8 日 目	10 日 目	12 日 目	
形 状		20	16	15	13	10	8	6	17
色 沢		20	16	16	14	12	12	10	18
香 気		20	17	18	16	14	12	10	18
水 色		20	19	18	15	16	14	14	18
味		20	16	16	14	15	13	13	16
外 観 計		40	32	31	27	22	20	16	35
内 質 計		60	52	52	45	45	39	37	52
合 計		100	84	83	72	67	59	53	87
評価額円		3,294	1,435	1,463	1,403	959	909	761	1,820

これらのことから, 二段刈の下段処理を8日以内に実施すれば品質の低下はおさえられるものと思われる。ただし, 処理が早いほど, おくれ芽等の発生が多くなり, 2番茶に混入しやすいので, おくれ芽対策が必要である。